



Tanabe East Rotary Club in 2018-19

2018-19年度RI会長：ハリ・ラン

第2640地区ガバナー：樫畑 直尚

田辺東ロータリークラブ

創立：昭和49年5月15日

会長：武田 静也

幹事：野村 憲司



例会場/事務所：田辺市下屋敷町81-10

きのくに信用金庫田辺支店3F

Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008

http://tanabe-east-rc.com/

E-mail info@tanabe-east-rc.com

例会：毎週水曜日 12:30～

ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 武田 静也



■1月14日(月) 米国カリフォルニア州サンディエゴで開催中の国際協議会でマローニー会長エレクトにより「2019-2020年度のRIテーマ」が発表されました。
『ロータリーは世界をつなぐ』

■1月26日(土) けやきONE (ガバナーエレクト事務所) 会議室に於いて「第2回ガバナー補佐・幹事予定者合同会議」が開催されました。ガバナー補佐予定者として私、武田が出席致しました。

■本日のプログラムは会員卓話として、上原 俊宏 君です。後ほど宜しくお願ひ致します。

■本日は奉仕食となっております。ご協力をお願いします。

○幹事報告 幹事 野村 憲司



「米山記念奨学生のお世話クラブお引受のお願い」
「2019学年度世話クラブ回答書」
「『ローターアクト地区献血』応援のお願い」
◎ガバナーエレクト事務所より
「クラブ周年記念行事の御照会」

■メイクアップ

◎1月26日(土)第2回ガバナー補佐・幹事予定者合同会議
武田静也

■連絡

◎2月のロータリーレートは 1ドル=110円 です。
◎「ロータリーの友2月号」が届いています。
◎今年も東京RC会員のクマヒラ様より「抜萃のつゞり その七十八」を頂いています。各自トレーに入れてあります。
◎米山記念奨学会より平成30年1月1日から12月31日までの、ロータリー財団より平成30年7月1日から12月31日までの寄付に対して「確定申告用寄付金領収証」が届いています。該当者のトレーに入れてあります。よろしくお願ひいたします。

■回覧

◎週報「橋本RC」
◎「英語版ロータリアン 2月」
◎樫畑ガバナー事務所より
「2019-2020年度のRIテーマが発表されました
『ロータリーは世界をつなぐ』」
「青少年交換夏期短期派遣学生募集のご案内」
「募集案内」 「申請書」

○本日の唱歌

「田辺東ロータリー讃歌」 唱歌委員 後藤 信博 君



○出席報告

会員数 43名 義務免除 5名 本日の欠席者 8名
本日出席率 78.95% 1月16日の修正出席率 89.47%

〇にこにこ報告 (敬称略)

◇卓話がんばって下さい。

愛須勝章、泉房次朗、上原俊宏、片井貢、木村壽一、後藤信博、岡本博、坂本正人、佐田一三、武田静也、竹中悟、竹村英一、谷中順次郎、玉置佳範、山本亘、西谷貞彦、野村憲司、森本修至、吉田和枝

◇本人誕生日 中嶋伸和

◇お花頂きます。 阪本邦夫

◇先週の例会では、多くのクラブの皆様に、絵本・グッズ等沢山お買い上げ頂きありがとうございました。お蔭を持ちまして、串本町、古座川町の全保育園、幼稚園、小学校に絵本を寄贈する事が出来ました。これからは、和歌山県下の幼稚園、小学校に寄贈していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

本田耕二

☆皆様たくさんのニコニコありがとうございました。

〇本日のプログラム

「年の初めのめでたさを」

会員 上原 俊宏



記事

昨今の日本の人口は一億数千万人であるとされる。遡ると、昭和の初め頃は半分の五千万人程度であろうか。さらに明治の初めには二千万人弱程度となるらしい。そして明治の初めはおろか昭和の初めに生存していた人たちの多くは現在既に鬼籍に入っている。

つまり百五十年ほどの間に、本邦では七千万人ほどの人が亡くなっている勘定になる。勿論、今から百年もすればさらに一億人以上が死亡する計算である。生まれたモノは必ず死ぬのが摂理である。

そして、亡くなった方々の殆どが、それなりの業績を残し現在の文化の発展に貢献したのであるが、殆どの方が弔われハカが作られたことだろう。古人のハカではなく一家の墓もあるだろうからしても推定二百年ほどで七千万柱ほどのハカが造営されたことになる。

本邦は海に囲まれた狭い国土であり、七千万人を弔うために古人をそれぞれ土葬にするにはどうしても場所が、土地が足りない。かといって死者の冥福のために生者の食い扶持である水田や畑を墓地にする事は出来ない相談である。

国も、大きな陵墓を作らないとか、結果的に広い土地が必要となる土葬を禁止するとかして民族の墓制をコントロールしてきた歴史がある。

松と墳墓

- 古代中国の墳墓の制度 (墓上植樹)
- 天子の陵 盛り土 上に植樹: 松の木
- 諸侯の墓 盛り土 上に植樹: 柏の木
- 士大夫の墓 盛り土 上に植樹: 槐の木
- 平民の墓 盛り土不可 柳を植える。
-
- 本邦では一里毎の塚に常緑の松を植えて道標とした。
- 高松塚では、塚上に松の木があったとされる。
- 松の山 = 青山 = 墓所の意味

能舞台の構造



影向の松



奈良の春日若宮神社のお祭りの初日、田楽や猿楽などの芸能者が鳥居の傍らにある一本の松の前で芸を披露したが、その松こそが春日明神が影向するという、まさに「影向の松」なのだ。

というわけで、舞台後ろの板は影向の松が鏡に写ったと見立てることから「鏡板」と呼ばれるようになった。松は寿の字のような格好だが、鏡板の絵は鏡に写っているという想定だから、寿の字を逆さまにした形をしている。神仏に守られて能を舞うという舞台装置になっているのだ。

冥界への道

- 能舞台は冥土の世界: 冥界 松の緑の一里塚の行き着く先。
- 能舞台は神の宿る空間とも冥界ともされる異次元の空間世界。
- そこに至るには、三の松、二の松 一の松とたどり影向の松へ
- 門松の一里塚で向かうところは冥界 → 死後の世界: 冥界
- X-5の松、X-4の松、X-3の松、X-2の松、X-1の松
- Xの場所が能舞台、冥界 三途の川
- そしてXの場所には最終的な大きな枝の下がった影向の松がある
- この松を 通称 衣領樹 と称している。
- 三途の川の川岸 奪衣婆 (ショウツカの婆)、懸衣翁
- 衣を懸ける→重さ (業) により枝が下がる。→川渡り

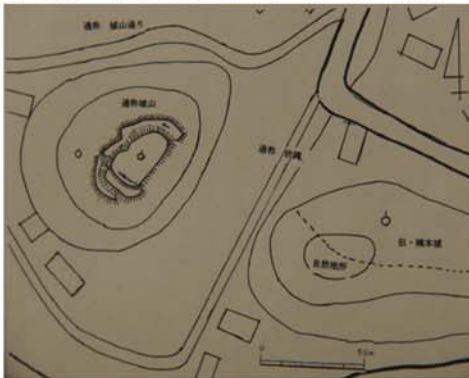
最近、過疎の海沿いの集落をあるくと集落の中央部の高台に念珠堂が作られている風景に出会うことがままある。そして集落の中央部から離れた場所に、鬼門のような場所に「閑散とした空き地」のあることが常であるが、そのような場所は今では公民館になったり、公共施設が作られているようである。大きな公共施設は増設されていないが、田辺周辺では新庄とか鳥の巣が、そういった場所に当たる。

耕作地の少ない場所で広い墓所の作れない集落では遺体葬送の場としての「埋め墓」と石塔を建てる「詣り墓」を別にするという墓制が発達したようだ。これを両墓制という。

初山城趾、楠本城趾



初山城趾縄張り図、ジョモン楠本城趾



両墓制

- 両墓制について
- 墓地の種類
 - 単墓制 遺骨の上近くに石塔を建てる
 - 両墓制 遺体を埋める墓 埋墓 サンマイ 慰霊する墓 詣り墓 ラントウ
- 無墓制 無石塔墓制
- 両墓制の呼称
 - 埋葬地 サンマイ ハカ ポチ ムショ
 - ミハカ イケバカ ステバカ
 - 石塔地 ラントウ ラントバ ラントウバ
 - マイリバカ タッチュウ キヨハカ
 - セキトウバ

中の両墓制

- 顕揚小学校
- 明治の初め頃まで一徳寺（詣り墓）
- それまでの埋の墓が現在の浜の墓地
- 明治に改装し、役場、小学校を作る。
- 昭和12年12月20日 映画会 火災
- 小学校が現在地に移転 一徳寺跡

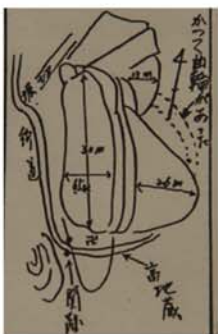


公文平城趾

毘沙門天



南の守り 公文平城趾 北の守り 泊城趾



両墓制の跡



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

鴨居の両墓制

- 集落内の高台に地蔵堂 アゲバカ
- 西の外れの浜にウメバカ
- 昭和9年の室戸台風で埋葬遺骨が流失
- 以後道の山側に単墓制の墓地を作成
- 江川の浄恩寺（浄土宗）



埋め墓



詣り墓



椿（伊勢ヶ谷）の両墓制

- 嘗ては13戸ほどの集落があり、
- 猿公園となった。岩陰にウメバカと詣り墓（ラントウバ）があった。



小高いところに地蔵尊 足湯近くに観音堂



※一部、インターネットからの引用と各種郷土誌等からの引用があります。

かつて、何も知らないで、一人鳥の巣の集落を散策したことがあった。大きくはない集落であるが、地蔵堂という小さな墓石の並ぶお堂が目につく風景であった。

ところが、少し奥深くに歩を進めると、妙な胸騒ぎと清逸さを感じる場所があった。特別の悪意は感じなかった。いつもの散策で歩行が止まることはまずない。一度は市鹿野近くの山道というか獣道を歩いていた折り、道の中心部に大きな蛇がいた。少しざわざわと草むらを騒がしてみたが動じず動かず。20分後して、やむなくこの日は散策を中止して帰路についたことがあった。そのとき以来の経験であった。多少息苦しくなり、これ以上の進行散策が出来ない状況となっていたのである。こういう時は素直に引き返すことにしている。数年後に、歩いたときには異質感を感じることもなかったが、どうも嘗ての両墓制の地に無断で侵入したためであったのだろうと思う。

以後は九字を切りマントラを唱えることで問題解決をするようになったが、爾来、当地方には割と両墓制が多いのに気がついた。また、山岳部の過疎の集落でも、村道から少し脇道が開いている事があるが、その道は本道よりも清潔に手入れがなされている。そんな場所は多く地区の墓所への参道であることが常である。

山歩きは、地の神と地方の祖霊の鎮魂の歩きでもある。過疎の田舎道を歩くときは敬虔な気持ちで、静かに歩かねばならない。タブーを肌で感じながら歩くことが望ましいのだろう。

本日は、両墓制のある白浜町の散策記である。明日の祖霊と出会うための散策でもある。心静かにご拝聴を願いたい。 上原@田辺市 田辺東ロータリー会員

將東遊題壁 釋月性

男兒立志出郷關， 學若無成不復還。

埋骨何期墳墓地， 人間到處有青山。

【詩意】

男子たる者、志を立て、国を出たからには、もし学問が成就しなければ再び故郷の土を踏むことはない。骨を埋めるのに、故郷の地を望もうとは思わない。世の中には到る所に墳墓となる青山があるではないか。

○編集後記 編集後記1-30ひしのみ

暖かき 光はあれど 野にみつる 香も知らず 浅くのみ 春は霞ての季節となりました。田辺周辺では余り麦の生産を見ることはないのですが、麦は芽を出すと麦踏みがあり、鍛えられて大きくなります。四季の中でも冬の寒さが人を鍛えるのかもしれませんが。植物界で云うところの「寒冷打破」でしょうか 暖かき光に誘われて、菜の花が群生しています。もう春です。



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか